2024年1月10日

今年2024年の年賀状受け取りました。有難うございます。

私は2019年11月末に心臓の不整脈で意識を失い、救急車で搬送され、11月末から12月末まで1か月近く入院しました。退院したのは12月25日のクリスマスの日でした。この間に心臓にAED付きのペースメーカー（除細動装置、ICD）埋め込み手術を受けました。いま一級障碍者手帳を交付されました。コロナウイルス蔓前だったので、日本の本来の医療を受けました。入院中に医師、看護師、検査技師、食事係、職員など世話になった人々は 50 人を超えていたでしょう。コロナ肺炎でモラルを失い、金もうけ主義に走った医師、病院がいました。いまの日本の医療制度がいつまで続くのだろうか。

私は2019年の年末に入院したので、2020年の年賀状を書く時間が取れず、こと年の年賀状は止めた。そして、この機会に以後の年賀状を止めた。理由は2つ。

1つ目。70歳を超えたことと心臓に一生つきあうICDを埋め込んだこと。

2つ目。私は過去20年近く家内と毎年一度ヨーロッパ旅行に出かけていた。年賀状にこの海外旅行の写真を添えていた。手術後、主治医から海外に行くことを禁止されたので、年賀状に添える写真が手に入らなくなった。

2018年の地中海クルーズで訪れたマルタ島のバレッタ。

思い出に残る訪れたヨーロッパの国々、街々だ。

イタリア 5 回、ローマ、ミラノ、ヴェネチア、フイレンツェ。フランス 5 回、ノートルダム大聖堂、シャルトル大聖堂、ストラスブール大聖堂、シャルトル大聖堂。イギリス 4 回、湖水地方、コッツウオルド地方。ドイツ 3 回、ライン河下り、ポツダムのポツダム会談の開かれたツエーツェリエンホフ宮殿。オーストリア 2 回、ドナウ河下り、ウイーン、ザルツブルグ。オランダのアムステルダムの大堤防。スイスのマッターホルン、ユングフラウ、モンブラン。ベルギーのアントワープ、ブルージュ、リージェ。チェコのプラハ。ハンガリーのブダペスト。クルーズ船で訪れた島々。エーゲ海のサントリーニ島、地中海のシチリア島、マジョルカ島、マルタ島、サルジニア島、

私は自らの人生を60歳までの前半と60歳からの後半とに分ける。会社員時代と定年後時代と言ってもよい。

前半と後半で尊敬すべき二人と知り合った。この二人と知り合ったことが私の人生をどれほど豊かにしてくれたであろうか。人は一生の間に多くの人と知りあうが、全ての人間が同じ重みではない。私は親しい人が亡くなると悲しみを覚えるが、見ず知らずの政治家の死に何ら悲しみを感じることはない。国家が国葬と称し、国民に権勢を誇った為政者の死に悲しみを強要するのは止めた方がいいだろう。

一人目。東レ株式会社時代に 3 度仕え、会長にまで上り詰めた下村彬一元会長。下村さんに会わなかったら、私は定年まで東レに居なかっただろう。どこの組織でも上司が人望、人徳の持ち主とは限らない。私は出世とは縁のないサラリーマン人生を送ったが後悔はない。下村さんは人望と人格の持ち主だ。今も下村さんと毎年何度か会食をしている。

二人目。定年退職後に一人一票実現国民会議に加わり、共同代表の升永英俊弁護士と知り合った。升永さんは自分には何ら見返りのない選挙の一票の格差解消運動に私財を十数億円投入した。私は私利私欲を人生の目標としない人間のいることを知った。世の中には地位、名声、金銭が人生の目標である人間とそうでない人間がいる。

評論家・加藤周一（1919～2008）さんは亡くなるまで24年間、朝日新聞に毎月1回『夕陽妄語』と言うコラムを書いていた。1997年111月19日に「老年について」とのコラムを寄せた。

『老子図』を見た後で、私は『檜垣』の老女を想い出し、老いとは何かを考えた。もちろんそれは心身の衰えである。眼がかすみ、耳が遠くなり、脚がおそくなる。もの覚えが悪くなり、喜怒哀楽の情がうすく、注意の持続も短くなる。いわゆる「枯淡」は衰えの美称に過ぎず、「老成円熟」は積年の習慣の言い換えにすぎないだろう。しかしこの世のなかに、なすべき事はあり余るほどあり、なし得る事が少なくなっても、個人がその小部分に係るにすぎないと言う状況は、老若男女において変わりがない。昔も今も、憂うべきものは多く、憎むべきものは多い。知的好奇心の対象に限りがないことは、いうまでもない。しかるに現実に愛し、憎み、知るものが、涯のない世界の、極めて小さな部分にすぎないということは、老いの至るに及んでも、全く変わらない。人生の朝と夕暮に本質的なちがいはないように思われる。

本質的なちがいがあるとすれば、それは青年の後には老年が来るのに対し、老年の後には死が来るということだけだろう。

加藤さんがこのコラムを書いたのは78歳の時だ。私は今年で75歳になった。私がいままで生きてきた人生で、愛すべき事、愛すべき人に出会い、憎むべき事、憎むべき人にも出会った。老年に至り若い頃の目標であった出世、名誉、財産などはちっぽけなもの、つまらぬものであるように思える。死は貴賤、貧富を問わずすべての人間を平等にしてくれる。

〒227-0067　横浜市青葉区松風台36－16
TEL/FAX:　045-962-2334
e-mail:　yukioyokoi@tbu.t-com.ne.jp

横井幸夫